

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		-	-
		一般小売店〔事務用品〕(店員)	・働き方改革の職場環境改善商品や季節商材の販売に動きがみられ、微増ながらも期待できる。
		一般小売店〔書籍〕(従業員)	・景気の底から脱し、来客数が増えて購買動向が良くなっていると期待している。
		一般小売店〔鮮魚〕(役員)	・7～8月は連休や夏休みで人が動くので、それに期待したい。
		コンビニ(経営者)	・店の認知度が上がり、販売量が上がると見込んでいる。
		家電量販店(店長)	・有機ELテレビの販売に期待が持てそうである。
		乗用車販売店(従業員)	・今月は他社との合同開催の中古車フェアに参加しており、新規客の増加に期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・猛暑予想が出ているので、不振が続いている盛夏衣料や暑さ対策品、飲料に期待したい。
		タクシー運転手	・観光の予約や、そのほかにも見積などの問い合わせが入っている。
		タクシー運転手	・夏休みに入れば、レジャーなどでタクシー利用が増えてくると見込んでいる。
		通信会社(役員)	・競合事業者への契約移行件数が、やや減少傾向にある。夏のボーナス支給によって消費者心理が刺激され、契約件数が増加することを期待している。
		その他レジャー施設(総支配人)	・夏休み期間限定プログラムの募集が、ほぼ予定どおりに進んでいる。しかし、新規入会の見込み客獲得につながらない。前年より単価の安いクラスへの問い合わせが多く、期間限定プログラム実施後に入会に結び付くかが不安である。
		住宅販売会社(従業員)	・住宅販売の大型イベントで、来場者数が前回の5割増しとなり潜在客は増えている。今後、来場者からの契約が増えると考えているので、景気は良くなる。
		商店街(代表者)	・特に良くなるような環境にない。
		一般小売店〔精肉〕(店長)	・お中元ギフトの序盤戦は、売行きが軒並みダウンしている。7～8月もこのままの状態が続くのではないかと心配している。
		百貨店(売場主任)	・中間層の可処分所得が増えず、衝動買いやまとめ買いが減っている。そうしたなかで日経平均株価が2万円を超えたため、一部の富裕層の購買行動が多少活発になると見込んでいる。全体としてはあまり変わらないと考える。
		百貨店(営業担当)	・催事で一時的に来客数が増加しても客単価が低い。現状は客の買い方がシビアなままで、ここ最近ずっと変わらない傾向である。この状態はずっと変わらないと考える。
		百貨店(販売促進担当)	・株高は一部の富裕層だけの経済効果であり、中間層に影響がない。消費改善の兆しはないと考える。
		スーパー(店長)	・良くなる要因が見当たらない。
		スーパー(総務担当)	・雇用状況は有効求人倍率が高いまま推移している。採用が難しい状況は変わらない。夏に向けて観光客数が増えることにやや期待感はあるものの、変動はないと考える。
	スーパー(総務担当)	・気温の変動による日々の売上高増減はあるが、月間では前年並みの売上に推移しそうである。	
	スーパー(統括)	・消費動向が変化する見込みがない。	
	コンビニ(経営者)	・特需というわけではないが、夕方の来客数が増えて客単価が上がっている。この状況に間違いはないのだが、これが更に上振れする要因は特に見当たらない。	
	コンビニ(店長)	・改装した転換店舗は良くなり、既存店は前年を割る状況であるため、トータルで考えて現状は変わらない。競合他社から売上を獲得できていると考えたと上向く可能性はあるが、あくまで本部事情による売上の上昇であるため、景気という意味では実感しにくい。直感的に変わらないと感じているので変わらないと回答した。	
	コンビニ(店舗管理)	・ビール等の値上げにより、ディスカウントストアやドラッグストアからの客の流れを期待していたが、影響は見られなかった。そのほかにも思い当たる好材料がない。	
	衣料品専門店(経営者)	・製造業では景気が上向いているという話をよく聞く。確かに、北陸新幹線延伸や人手不足とか、にぎやかになっている。飲食店は好調だと聞いており、そろそろ小売業にも来るだろうかと期待している。	
	家電量販店(本部)	・季節要因を除けば大きな変化はない。	

自動車備品販売店（役員）	・ 9月までは車検需要、車販売が好調に推移すると見込んでいる。しかし、その後の落ち込みが不安である。また、人手不足が続いている中、良い賃金を求めて転職者が例年以上に増えている。事業運営自体が厳しくなっており、今後の見通しは厳しい。
住関連専門店（役員）	・ 前年と比較して買上客数及び買上単価の減少が継続している。単価のダウンからもわかるように、消費者の低価格傾向がより一層強まっていると考える。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・ この先、景気が良くなる様子は全く感じられない。7月はお中元や商店街の夏祭りなどのイベントのため忙しくなるが、景気が良くなるとは感じられない。
一般レストラン（店長）	・ 週末を中心にフリー来店客の動きが良い。持続を期待したい。
一般レストラン（統括）	・ 客のニーズに対する新規の取組など、売上、来客数アップにつながる課題は多くある。しかし、人手不足が原因ですぐに対応できない、機会ロスの状況である。外国人労働者の起用、人材育成のスピードアップが最優先課題となっており、売上や来客数を増やす施策が打てない状況にある。
観光型旅館（経営者）	・ 7月以降も個人客の動きが悪い。予約状況は前年や一昨年を下回っている。
観光型旅館（スタッフ）	・ 当月の予約状況は前年並みを確保出来たが、この先6か月の予約保有は北陸新幹線開業前の水準で推移しており、まだ回復には時間がかかる。
都市型ホテル（スタッフ）	・ イベントがある特定日はほぼ満室になるが、なかなか安定して客室稼働率が上がらない。夏休みにファミリー層を取り込むための商品開発をして客離れを防ぎ、来客数増を図っている。レストラン、宴会部門共に単価アップは期待できない。
都市型ホテル（役員）	・ 宿泊部門では、山岳観光のハイシーズンが過ぎて、これからはインバウンド客が減少傾向となる。レストラン部門においては、店舗により異なるが、個人、法人共にまだ回復傾向にはない。一般宴会の申込状況をみると、全館としては景気動向は変わらないと考える。
旅行代理店（所長）	・ 夏休みなどでの旅行需要に動きがみられない。
旅行代理店（支店長）	・ 現在より良くなる、あるいは悪くなるような具体的根拠がみられない。
通信会社（職員）	・ 新サービス商材が早くても9月の投下となり、現状維持でいっぱいである。
通信会社（役員）	・ 夏休みは閑散期となるので、契約獲得数が厳しくなると考える。
通信会社（営業担当）	・ しばらくは現状維持となり、10月以降に発売される新商品によって販売が伸びると見込んでいる。
通信会社（営業担当）	・ 客の動向をみても大きな変化が感じられない。前年比で同じような推移である。
テーマパーク（役員）	・ 2～3か月先の予約状況をみると、国内の団体客は好調に推移するものの、インバウンド客の動きがやや鈍く、全体としては横ばいに推移すると考える。
競輪場（職員）	・ 公営競技の業界全体が停滞気味であり、良くなる気配も悪くもなる気配も見受けられない。
美容室（経営者）	・ 既にボーナスが支給された企業はあるようだが、景気のいい話が聞こえてこない。
住宅販売会社（従業員）	・ 下半期にかけて受注棟数は前年同様と見込まれる。
住宅販売会社（従業員）	・ 受注に関して、伸びる要因が見つからない。過去に取引があった関係先からの受注が多く、飛び込み客が少ない。
商店街（代表者）	・ 近隣に大型ショッピングセンターがオープンした影響がありそうだが、まだはっきりとはわからない。徐々にパンチが効いてきそうである。
スーパー（店舗管理）	・ 依然として競合店との集客の競り合いが続く。更に旧盆セールに影響しそうである。
衣料品専門店（経営者）	・ 衣料品の売上については、底打ち感が全く感じられず、依然として厳しい状況が続いている。
家電量販店（店長）	・ 前年に比べて季節商材の動きが悪い。今後の気温上昇に伴って季節商材のピークに偏りが出て、取付工事の集中や商品在庫の不足のため販売機会のロスが発生する懸念がある。
乗用車販売店（経営者）	・ 例年は夏場に入ると来客数が減るので、販売は苦戦するとみている。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ 前年に好調だったシネマの反動が引き続き影響するため、来客数は前年比を下回ると考える。また、衣料品のトレンドも前年割れから改善しないため、雑貨、食物販、サービス、アミューズメントの売上に頼る傾向が続く。

	高級レストラン（スタッフ）	・夏場は団体旅行客や法人接待、法人宴会が一年で最も少ない時期である。個人利用を促すため7～9月末までポイント倍増のキャンペーンを行うが、今のところ受注ペースはよくない。
	スナック（経営者）	・祝日などが多いと、普段の日も静かになる傾向があり期待できない。また、内外的な要因によりマイナスになることもありえる。
	住宅販売会社（営業）	・客の動きが限定的になっている。
	x	-
企業 動向 関連	-	-
(北陸)	プラスチック製品製造業（企画担当）	・主力の建築資材では、高齢者住宅や宿泊施設等での伸びを期待している。また、産業資材では引き続き自動車関係の堅調な伸びを見込んでいる。
	食料品製造業（経営企画）	・良くなるにしても悪くなるにしても、これといった変動要因が見当たらない。
	繊維工業（経営者）	・輸出関係の受注状況が、今一つである。
	繊維工業（経営者）	・自動車関連の資材やユニフォーム関連の受注は堅調だが、百貨店での衣料消費の低迷に象徴されるように、衣料関連はスポーツ向けも含めて今後とも苦戦する。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合をみて、変わらないと判断した。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・引き続き、国内、欧米市場からの受注量が安定してくると見込んでいる。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・依然として海外向けを中心に受注状況は好調を維持すると考える。個人消費が活発になってきているようにも感じられるため、今後は更なる受注増を期待する。
	精密機械器具製造業（役員）	・今後3か月は数量的には多少増産の計画となっているが、大きく変わるレベルには至っていない。
	建設業（経営者）	・北陸新幹線が一昨年開通し、関連事業がほぼ一段落している。今後、新たな目玉になる事業は多く見込めない。
	金融業（融資担当）	・前向きな投資の話は出てきているが、更なる景気上昇につながる生産、販売拡大のための投資というより、効率化のための投資が多い。人手不足の中、IT等を活用しながら少ない人員でオペレーションを行うニーズが強い。
	金融業（融資担当）	・建設業者の話では、工事が発注されても人手不足で施工に支障を来すとのことである。
	不動産業（経営者）	・同業者の話だが、最近個人からの問い合わせが増えてきているという情報と、法人からの問い合わせも出てきているとのことであった。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・引き続き売上は前年を上回った。ただし、1か月限定の特需的な広告が入ったおかげである。注意すべきは大型ショッピングセンターのチラシ出稿量が落ちていることである。
	司法書士	・事業用資金の借り入れはあまりないが、居住用住宅地の購入や住宅の新築は堅調である。
	税理士（所長）	・一番の問題は、地方での人手不足である。特に当地ではなかなか人が採用できず、昔ほど仕事がこなせていない。また、熟練技術者の高齢化による廃業が見られ、身の回りでも徐々にそうした生産力が失われつつあると感じる。何となく社会の働き場が限られ、需要があるが人手が足りないという状況は、将来的な伸びしろが薄いのではないかと感じさせる。さらに、給与が上がらないことも影響している。中小企業では消費につながるような給料が従業員へ出ていないと考える。
	輸送業（配車担当）	・大手物流業者が打ち出した乗務員の週3日の休日運用の影響により、今後は乗務員の賃金が上昇して利益を圧迫すると考えられる。
	通信業（営業担当）	・今年度に入って売上がガタ落ち状態となっている。理由は不明である。
	x	-
雇用 関連	-	-
(北陸)	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人動向が一回りしているので、給与を受ける人数が安定してくれば消費に安定感が出てくるのではないかと考える。
	職業安定所（職員）	・製造業や建設業を中心に、企業の設備投資の高まりによって求人の増加がみられる。しかし、人手不足や海外経済の動向、為替相場の先行き不透明などで懸念がある。
	学校〔大学〕（就職担当）	・継続募集や新規募集の案内が5月末から続いており、人材確保の厳しい状況がうかがえる。求人件数は前年の件数を超えた。
	人材派遣会社（役員）	・専門技術者の求人が増えているが、経験者が少ないためマッチングしない。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・大きな雇用につながる話が出てこない。
	職業安定所(職員)	・求人数は、わずかながらではあるが伸びている状況にある。求職者については、わずかながら減少方向にある。これらのことから考えると、これからも横ばい状態で進むのではないかと考える。若干、産業間において差があるものの、募集する人材という点では、どの産業も若い技術者の確保に苦労しているようである。
	民間職業紹介機関(経営者)	・新卒採用した企業では5～6月が人手不足と言いながら、ある程度は充足感があったようである。人材紹介や派遣の求人依頼は、緊急や短期的なものが多かった。しばらくこの傾向が続くと考える。
	-	-
x	-	-